

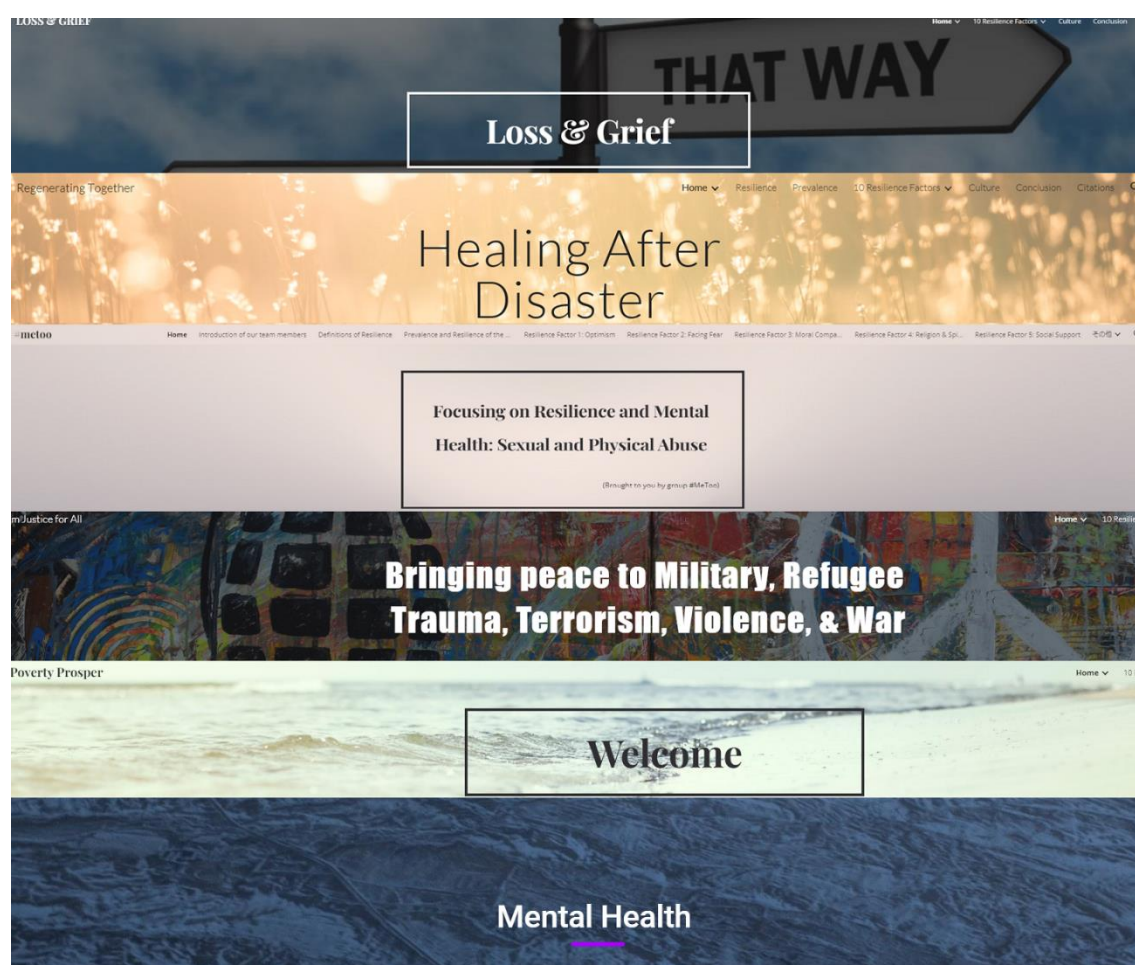
2022.2.9～3.8【保健衛生学科】米国ワシントン大学（UW）との遠隔国際交流プログラム Collaborative Online International Learning (COIL)を開催しました

昨年度に始まりました米国ワシントン大学（UW）との遠隔国際交流プログラム Collaborative Online International Learning (COIL)を今年度は全 5 回で開催しました。

このプログラムは、Zoom による講義と Discussion、選択したテーマの Padlet（掲示板アプリ）への書き込みを行い、グループ毎に日米共同プロジェクトのホームページの作成とプレゼンを行うという同期/非同期を組み合わせたハイブリッドの COIL プログラムです。

1 日目は TMDU の学生のみを対象に、両校の交流歴史の紹介と、米国の看護師・検査技師の Job Market 等を含んだ実際の情報等について UW の先生方から紹介がありました。リアルタイムアンケートや学生への質問があり、オンラインの利点を生かした双方向の講義となりました。

共同プロジェクトの今回のテーマは、Loss and Grief（喪失と悲嘆）、Disaster（災害）、Sexual/Physical Abuse（性的/肉体的虐待）、Terrorism/Violence/War（テロリズム/暴力/戦争）、Poverty（貧困）Serious Mental Illness（深刻な精神疾患）の 5 つです。これらの難しいテーマに対し、双方の学生達は探求し自身の意見を Padlet に述べました。それに対し他の学生達が自分の意見を追記するという形で多方向からの意見が積み重なっていきました。



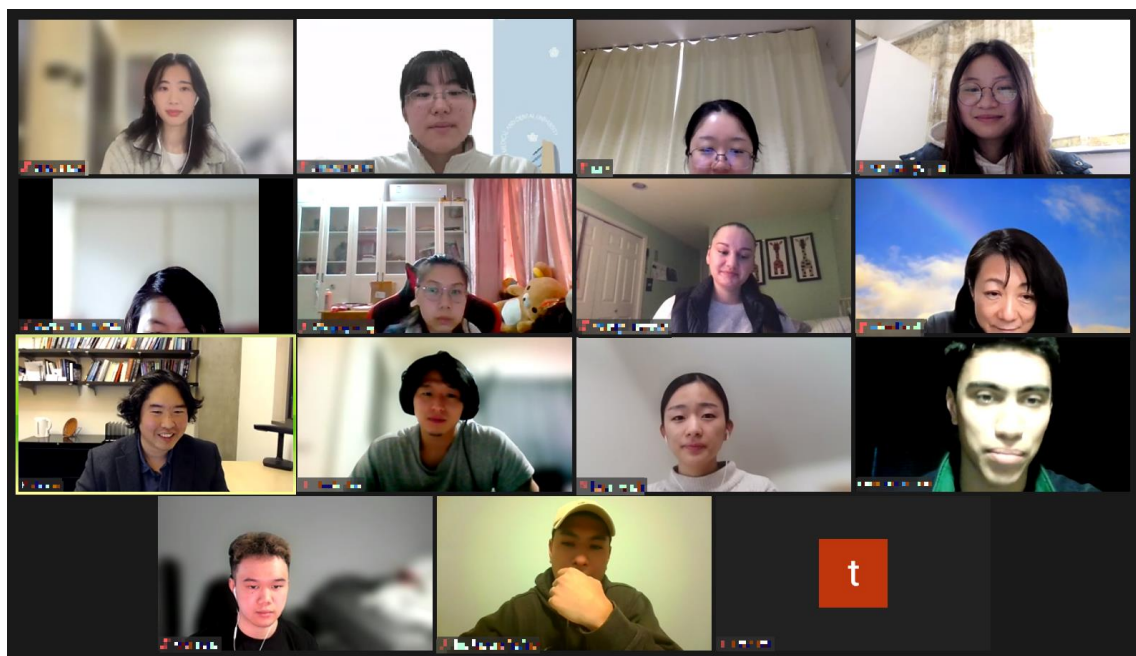
<テーマ毎に作成したホームページ>

2 日目からは UW の学生も参加し、米国・日本・中国の文化についての講義がありました。双方の学生のルーツは東南アジアから日本・アフリカ・南米・欧州ととても広く、様々な文化圏から参加している学生がおり、文化や宗教の違いや共通点についての質問も多く、興味深い講義でした。オンライン講義の利点であるチャットでの質問や学生の発言も前回よりも多くみられました。

3 日目は TMDU 学部学生の日本文化と自己紹介のプレゼンがメインとなりました。着眼点の違いで色々な角度からの日本の文化を紹介できました。自己紹介の際に「テーマを選んだ理由」を入れた学生もあり、学生達の意力が画面から伝わるプレゼンに UW の学生からも質問やコメントがさらに多くありました。

4、5 日目は、Padlet への書き込みによる非同期で進めていたプロジェクトの発表でした。TMDU の院生がモデレーターとしてプレゼン発表を進めていきました。

国際化が急速に進む中では、相手の文化を知り、自身のルーツを見つめ直すことは、自分の世界を広げる第 1 歩であり、大切な要素です。直接会う事で受け取れる/与えられる学びもありますが、パンデミックによる物理的な繋がりを閉ざされた状況で、オンラインだからこそできる学びもあることを実感した全 5 回の COIL となりました。



<セッション終了後も話が尽きませんでした>